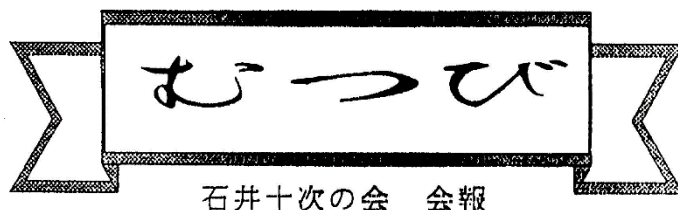


2023年
(令和5年)
1月1日



304号

石井十次の会 会報

年頭あいさつ

石井十次の会

会長 橋田和実

会員の皆さま、そして関係各位の皆さま、令和5年明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス禍3年目となり、さらにロシアのウクライナ侵攻や円安による物価高、そして本県では台風14号による被害も甚大でありました。国家全体がそれらの対策に追われた年でした。今年はぜひとも昨年からの問題が解消の方向に進み、少しでも明るく良い年になってほしいものです。

6年前に出された政府の「新しい社会的養育ビジョン」につきましては、一昨年の12月に石井記念友愛社の児嶋理事長ほか4名の共同代表者の皆さま、私、そして施設を卒園して実社会で活躍している3名の方々と一緒に厚生労働大臣へ署名簿と要望書を提出しました。その行動が功を奏したのか、里親制度と共に、児童養護施設の必要性や重要性が政府機関においても再認識され良い方向に動き始めました。

一方、石井記念友愛社におかれても、厳しい社会事情にも屈せず、着々と事業展開されています。都城市にある有隣園の敷地内に母子支援福祉施設を建設されようとしています。延岡市では自立援助のための施設を

開設し、大学生達の支援を行っておられます。また、「石井十次の会」の事務局となっている方舟館は2階が一部改修されて、明治、大正、昭和、平成、令和の5つの時代が重なる素敵な部屋が完成しました。事務局にお越しの際はぜひ部屋に寄ってみてください。130年以上の歴史を持つ方舟館は今年の台風14号の暴風雨にも耐えて石井十次の時代の外観を保っています。

それから、人間学を学ぶ月刊誌「致知」2022年9月号に石井十次の偉業が大きく紹介されていました。そこでは児嶋理事長が「石井十次の魅力は何かといえば『無私』の生き方であり、ひたすら世のため孤児のために命を投げ出す、倒れても惜しくはないという覚悟であります。それが石井十次を支えようという人々を引き出す原動力となっている」と述べておられます。明治から大正時代の実に厳しい社会情勢の中、命がけで300人以上の子ども達を養育した石井十次の偉大さは計り知れません。

私たち、「石井十次の会」もその精神を基本理念として受け継いでしっかりと活動していき、よりよい社会の実現の一助となればと念ずる次第です。私たちの活動に思いを寄せて下さる方もたくさんいらっしゃいます。

厳しい時代を迎えていますが、これからも「石井十次の会」の会員同士が互いに心を通わせ、手を携えて前向きに活動して参りましょう。本年もどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

5. 古巣の信用金庫（信用組合から改組）に戻り理事長になる

昭和 31 年 5 月、高鍋信用金庫に戻り理事長となった。当時の高鍋信用金庫は零細で、職員数は理事長を入れて 22 名だった。職員は尾崎を理事長と呼ばず「尾崎さん」と呼んだ。預金残高は宮崎信用金庫の 2 億 6600 万円に対してわずかに 8200 万円だった。尾崎の言葉によれば「オーバーに言えば全国最低の信用金庫」であった。

1000 円単位の融資に汗を流している時、出納係が「〇〇さんが預金 50 万円を引出したのでお金がありません」と駆け込んできた。融資の資金は別に用意してあったので、業務に支障はなかったが、この事態に尾崎はショックを受け 1 週間くらい重苦しい気持ちになった。

財務基盤の弱いそんな信用金庫に監督官庁の九州財務局（熊本市）は危機感をもったらしく、局長は尾崎を熊本まで呼び出した。そして日向興業銀行（現宮崎銀行）との合併を強く奨めた。

尾崎は返事をしなかったが、屈辱を感じた。そして逆に闘志を燃やした。臥薪嘗胆の日々が始まった。

6. 「経営は教育である」を実行し、若手行員の「心の教育」で人間性を育てる

尾崎は「金融機関の商品とはなにか」を考えたとき、「顧客の選択基準は、金融機関の信用とセールスマンとしての職員の信用にある」ことに気がついた。そこで「職員の誠実な人間性を育てること、社会から信頼される職員を育て上げること」を経営上の最重要課題とした。

理事長みずから全支店を廻り、「得意先係との顧客訪問」と「理事長懇談会」を始めた。昼は得意先係のバイクに同乗して得意先を訪問。得意先係に実地の教育指導をした。夜は懇談会を開いて職員と懇談した。スルメを肴に焼酎を飲んだ。バンカーとしてのあり方や人間としての生き方について議論した。尾崎にとって「経営は教育」であり「教育とは心の教育」だった。「心の教育」には尾崎自らが当たった。職員との絆は強くなった。

7. たゆまぬ努力の中、躍進がはじまる

成果は徐々にあらわれた。昭和 50 年には過去 10 年間の預金伸長率が全国信用金庫で第 1 位、貸出金第 2 位となり、全国の金融業界から注目されはじめた。昭和 53 年には資金量が 500 億円を突破し、同 59 年には資金量 1000 億円の大台に乗った。平成 5 年には資金量が 1500 億円となり、県下の信用金庫では他の追随を許さず、九州では第 4 位となった。

国内では「北の遠軽^{おんがる}、南の高鍋」と称された。両金庫とも農林漁業を中心とした経済後進地という不利な経済基盤の地域だったが、著しい業績の伸びを示したのである。

（＊遠軽：北海道紋別郡遠軽町・遠軽信用金庫）

8. 石井十次像の建立と顕彰会の設立

昭和 56 年、信用金庫は創立 60 周年を記念して石井十次像を制作し、高鍋町中央公園に建立した。あわせて西内天行著「信天記」復刻版を刊行した。

平成 2 年 4 月に財団法人石井十次顕彰会を設立し、尾崎は理事長に就任した。石井十次を顕彰すると同時に、石井十次賞を創設し、全国の児童福祉団体に光を当てる。同 5 月、尾崎は喜寿を迎えるのを期に信用金庫代表理事会長を退任した。退任後も友愛社の理事は続けた。講演に呼ばれると「柿原町長のもとで働き、薫陶を受けた話」をした。平成 11 年 10 月に名誉町民に推戴された。平成 18 年 1 月 5 日逝去。享年 92 歳。



高鍋町中央公園にある石井十次像

大原寿恵子夫人歌碑 ～（その１）

茶臼原小学校正門前の道路を北へ 50 メートル程の台地に
大原寿恵子夫人の歌碑があります。

「幾山河越えて来りて日向野や
此の高原に陽の落つる見ゆ」

大正 15 年、39 年間の歴史を持つ岡山孤児院が解散される
ことになり、その記念にと茶臼原孤児院に石井十次の銅像が
建立されました。夫の大原孫三郎と共に作者の大原寿恵子も
はるばる岡山から来て、その除幕式に出席しました。その前日に茶臼原の台地に、赤々と
落ちる夕日を見て、石井十次を偲んで詠んだ歌です。



大原寿恵子の歌碑

大原寿恵子は（1880-1930）、広島県生まれ、1901 年（明治 34 年）に、実業家 大原孫三
郎と結婚。寿恵子は、孫三郎が社長を務めた倉敷紡績（現クラボウ）の社員の為に設立し
た保育園「若竹の園」の初代園長を務めました。アララギ派の歌人としても活動しまし
たが、46 歳の若さで亡くなりました。長男 大原総一郎の成長などを詠んだ「大原寿恵子
歌集抄」があります。（次回へ続く）

文責：徳地 順子

《 お し ら せ 》

★新会員のご紹介（敬称略）

【宮崎市】高牟禮 勝宏 中川 洋一 【三股町】松元 祐一郎（株ミック

★ご寄付をいただきました（敬称略）

【宮崎市】山口 昇 【西都市】杉田 和夫 【綾町】重永 昌信

【高鍋町】富田 美智子

※ここまでの掲載者は編集等の都合により 12 月 13 日までのものとしています。

★2 月号の通信発送作業は 2 月 9 日（木）10 日（金）いずれも 9 時からです

★今月号から更紙よりも安価な再生紙（白）を使用しています。

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人
・団体に毎月送付しています。

〒 884-0102宮崎県児湯郡木城町大字椎木644-1
社会福祉法人 石井記念友愛社後援会

石井十次の会

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp

編集後記

★「むつび」巻頭の 1 ～ 2 頁は石井十次の会
橋田和実会長から挨拶をいただきました。

（編集委員 徳地 順子）